

# 令和7年度 学校経営方針

赤穂市立原小学校

## 1 学校教育目標

夢や志を抱き、自ら道を切り拓いていく児童の育成

## 2 求める児童像

みがき合う子（知）	こころ豊かな子（徳）	たくましい子（体）
自ら課題をもち、進んで学び、考えを深める子 （光るひとみ）	自尊感情と思いやりの心をもった人間性豊かな子 （輝く顔）	心身ともに健康で、最後までねばり強くやりぬく子 （さわやかな汗）

## 3 基本方針

本年度も「40名の原っ子を17名の教職員で手厚くサポート、協働の原小学校」を合い言葉に学校づくりを推進していく。コロナ禍後、体験活動の機会や地域とのつながりを取り戻し、子ども達自身や取り巻く環境が大きく変化する中、新たな教育活動をつくりあげていくことが必要となっている。また、これからの社会は、グローバル化が一層進展し、ICTの急速な発達が加わり、変化が激しく予測困難な時代を迎える。これからの時代を生きる子ども達は、社会情勢の変化に主体的に対応し、夢や志の実現に向け、未来への道を自ら切り拓いていく力を身につけていくことが必要である。そのような力を育むことを目指し、学校教育目標を「夢や志を抱き、自ら道を切り拓いていく児童の育成」とする。学校教育目標を達成していくために、次の3点を学校経営の基本方針とする。

### ①児童が夢や志を抱き、目標をもって意欲的に学ぶ学校づくり

子ども達一人一人のよいところを輝かせ、それを認め広げることで達成感や自己有用感を高め、キャリア形成を図りながら夢や志を膨らませていく。そして学ぶことの意義や自分の目標を意識して主体的に学んでいくようにする。

### ②教職員全員で児童一人一人の成長に関わり、学校運営の参画に達成感や有用感をもって取り組める学校づくり

子ども達一人一人の実態を全教職員で把握し、良好なチームワークを保って教育活動を展開し、達成感の得られる学校、また教職員が自分の得意分野で力を発揮し、自己有用感が実感できる学校づくりを行う。児童だけでなく教職員も自分の夢に挑戦していく、向上心に満ちた学校文化をつくっていく。

### ③コミュニティ・スクールとして、学校、家庭、地域が一体となった、安全で安心な、地域とともにある学校づくり

地域の特色を生かし、地域から学校運営への参画と協働を進めることにより、学校と地域住民との双方向の信頼関係を深め、子ども達の豊かな学びと育ちを創造する。安全で安心な、地域とともにある学校を目指して、子ども達のためにやりがいを実感できる活動を展開していく。

本校は小規模校である。少人数だからこそできるきめ細やかな指導や学習形態の実践、学年を超えた縦割り班での心あたたまる交流等、小規模校のよさを発揮した活動に積極的に取り組んでいく。また、保護者や地域の方々の、子ども達一人一人へのあたたかいまなざしと見守り、そして学校教育活動への理解と強力な支援は、本校のたいなる強みである。これらの強みを最大限生かして、夢や志を抱き、未来への道を自ら切り拓いていく児童を育成していく。

#### 4 重点目標と実践項目

##### (1) 確かな学力の育成

- ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を促進する。
  - ・学ぶことに主体的に取り組み、児童同士の対話や探究活動を通して、より深い理解や考え・問題解決・創造へと導く授業づくりを行う。
  - ・少人数のよさを生かしたきめ細やかな指導や学習形態を積極的に取り入れた授業づくりを行う。
- ②カリキュラムマネジメントを推進する。
  - ・児童の実態や地域の実情を踏まえ、主体的に学習活動を展開できるように教育課程を編成し、PDCAサイクルによりカリキュラムマネジメントを行う。
- ③学力の把握を的確に行い、つまずきの解消に向けた指導を充実させる。
  - ・すべての児童が分かる喜びを実感できるような個に応じた指導の工夫、見通しのもてる授業づくりを進める。
  - ・学習内容の定着度を的確に把握し、つまずき箇所の解消に向けて適切に指導する。
- ④情報活用能力の育成を推進する。
  - ・ICT機器を適切に活用した学習活動を積極的に推進する。
  - ・校内研修を充実させ、教員のICT活用指導力を高める。
  - ・プログラミング教育、情報モラル教育の充実を図る。
  - ・ネットトラブル未然防止の取組を推進する。
- ⑤言語活動の充実を図る。
  - ・授業中のノート指導、日記・作文指導、全校文集「ありなし」の作成等を通して適切に表現する力の向上を図る。
  - ・各教科等において、記録・要約・説明・論述等の言語活動を充実させる。
- ⑥グローバル化に対応した教育の充実を図る。
  - ・原小太鼓の演奏、アートマイル交流学习を通じた伝統文化や外国の文化に触れる体験から、人や社会との関わりを学ぶとともに、郷土を誇りに思う心を育む。
- ⑦地域人材の活用を図る。
  - ・体験活動や地域教材の学習等で地域人材を活用し、学力の向上を図る。

##### (2) 豊かな心の育成

- ①豊かな体験活動の充実を図る。
  - ・米作り体験や遺跡巡り等、地域の特色ある活動に主体的に取り組む。
  - ・ともに生きる態度を育む福祉体験活動を各学年で実施する。
- ②自分の大切さとともに他の人の大切さを認め、ともに生きようとする人権教育を全領域で推進する。
  - ・人権感覚を高めるための学習活動づくり、人間関係づくり、環境づくりを推進する。
  - ・人権尊重の精神を育むための授業づくりや学級づくりについて研修を深め、実践していく。
- ③道徳教育・特別活動の推進を充実させる。
  - ・「深い学びをめざす」道徳科の授業づくりについて研修を深め、実践的指導力の向上を図る。
  - ・学級活動、児童会活動、縦割班活動等を通して主体的な態度と集団での意思決定力を高め、望ましい人間関係を構築する。

### (3) 健やかな体の育成

#### ①体力・運動能力の向上を図る。

- ・計画的に運動に取り組む。

#### ②健康教育を推進する。

- ・新型コロナウイルスをはじめとする感染症予防やけがの予防、ストレスマネジメント等、自分自身で心身の健康を守るスキルを指導する。
- ・アレルギー疾患の正しい理解と対応について研修を行うとともに、児童に対して適切に指導する。
- ・家庭と連携して、「早寝早起き朝ごはん」運動を進め、生活リズムを整える。

#### ③安全教育を推進する。

- ・家庭や地域との連携のもと、通学路の安全点検や登下校時の安全指導等、児童の安全を守る取組を進める。
- ・安全配慮義務に配慮し、防災訓練、防犯教室、交通安全教室を実施し、児童の安全意識とスキルを高める。

### (4) キャリア教育の推進

#### ①各学年の発達段階に応じ、自分の生き方を考えるキャリア教育を進める。

- ・特別活動を充実させ、キャリア形成を図る。
- ・キャリア・パスポートを活用する。

#### ②保護者や地域の人々と連携した勤労体験を充実させる。

- ・保護者や地域の人々と連携して田植えや奉仕作業等を行い、働くことの大切さや周囲の人たちとのつながりを実感させる。

### (5) 特別支援教育の推進

#### ①多様な教育的ニーズに応じた教育を充実させる。

- ・特別支援教育コーディネーターを中心に、校内支援体制を整えるとともに、個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成・活用を充実させる。
- ・合理的配慮や多様な学びの場における指導を充実させる。
- ・特別支援教育の視点を大切にし、児童に寄り添った支援を推進する。

#### ②連携による切れ目ない支援を推進する。

- ・各種関連機関との連携を密に行い、より適切な支援を行うようにする。
- ・保幼小中の連携を行い継続的な支援体制を整える。

### (6) 家庭・地域との連携及び協働

#### ①コミュニティ・スクール活動を推進する。

- ・地域とともにある学校づくりを目指し、学校・家庭・地域が一体になった活動を推進する。

#### ②保幼小中が連携した学校行事、交流授業、交流事業の推進を図る。

#### ③学校の取組の発信と学校評価の活用を推進する。

- ・オープンスクールや学校便り、ホームページを通して学校の情報を発信していく。
- ・学校評価を行い、PDCAサイクルにより学校改善に生かす。

### (7) チーム学校による対応の充実

#### ①いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期対応を徹底する。

- ・校内研修による教職員の意識向上、的確な報告・連絡・相談による情報の共有、迅速で組織的な対応を徹底する。

- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを積極的に活用する。
- ②勤務時間の適正化に向けた取組を推進する。
  - ・学校運営を効率的・組織的に進め、児童と向き合う時間を充実させるとともに、教職員のワーク・ライフ・バランスの保持に配慮する。
- ③協働体制の充実を図る。
  - ・ハラスメントのない働きやすい職場環境を整える。
  - ・何でも相談しやすい、教職員同士が遠慮なく意見を言い合える環境整備をする。
  - ・内部講師による校内研修や、研究授業を積極的に行い、教職員の一人一人がチーム学校を牽引していくようにする。

## 5 めざす教師像

- ・教育に対する情熱・使命感をもち、児童に愛情をもって接する教師
- ・主体的に学び続ける専門性の高い教師
- ・児童や保護者、地域の思いを受けとめる信頼される教師

## 6 特色ある教育活動

- (1) 少人数のよさを生かした教育課程の実施と授業づくり
  - ・自ら学ぶ態度と基礎学力の定着をめざす学習タイム（モジュール）の実施
  - ・対話による探究を大切にした授業づくり
  - ・集会活動等を通じて、表現する力の育成
- (2) 地域の教育力を生かした学習活動や勤労生産活動
  - ・学校田「ありなし農園」及び5年学級田での米作りと収穫祭
  - ・環境体験学習としての大豆栽培と大豆を加工した食品づくり
  - ・地域から学ぶ体験学習の充実
- (3) 豊かな心を育む福祉体験活動
  - ・赤穂市社会福祉協議会と連携した福祉体験活動の実施
- (4) 地域の文化的特色を生かしたり、国際理解を深めたりするための文化活動
  - ・「原小太鼓」、「はねたれや」の表現活動の継承
  - ・全校文集「ありなし文集」の発行
  - ・遺跡探検や有年考古館での体験学習
  - ・アートマイル交流学习による海外児童との絵画共同制作
- (5) 健やかな心と体を育てる活動
  - ・計画的な全校業間運動の実施
  - ・「早寝早起き朝ごはん」運動の啓発
- (6) 異年齢集団による縦割り班でのふれあい活動
  - ・ふれあい班による集会活動、交流遊び
- (7) 学校間連携教育の推進
  - ・保幼小連携授業及び体験入学の実施
  - ・小中交流授業の実施